

— 心を愛し未来を拓く子の育成をめざして —

新居浜市一宮町一丁目5番1号 学校教育課 (0897) 65-1301

ESD主任研修会 (11月4日 新居浜市市民文化センター)



コロナウイルス感染症対策を講じた上で、ESD主任研修会を開催することができました。今回は、愛媛大学教育学部准教授で、愛大ESDラボの代表も務められている藤原一弘氏をお迎えし、小・中学校教職員等40名が講義やワークショップを通して、ESDの理念(目的や構成概念等)を再確認するとともに、SDGsについても理解を深めました。

最初に、学校教育における諸活動をESD、SDGs的な視点で捉え直し、カリキュラムを考えていくことの重要性を学び、後半で、目の前にある身近な問題解決に向けて、地域に根差した学習と行動の必要性を感じることができました。

今日の目的(ねらい)とお願い

- ESDやSDGsについて教師自身が考えること、児童生徒に考えさせること(行動させること)の重要性を問い直し、**ESDやSDGsに取組み楽しさやポイントについての説明**を、校内や地域で、自信を持って、できるようにする。
- 勤務する学校や指導するクラス、授業をESD、SDGs的な視点で捉え直し、明日からの学校や授業で、**ESD主任として「変容」した言動**で、過ごせるようにする。(そのために**受け身にならず主体的に受講する**。)

SDGsの課題解決と行動変容を迫られているのは、子どもたちではなく私たち大人。そのことをまず意識。

SDGsの解決を授業で取り扱うことだけで、変化の激しい時代に対応できるのか?

自分たちの意識や行動を変えないで、子どもに授業でSDGsが大事だと教えるのは、筋違ひなんだよね。

SDGsの17の目標は、現在の私たち大人が作ってきた課題、解決すべき課題である。子ども達にとっては、**解決すべき課題は将来変わっているはず**。それを考えさせるべきでは?

「ESDの学び」が目指すものとは

- 「持続可能な社会の担い手」を育成する。
- 「自立した市民」の育成する。
- 「自分で考え行動する力」を育てる。
社会的レジリエンスを備えたいしなやかで力強い人間性を育てる。
- 見えない他者への共感力と想像力を高め、**目の前にある身近な問題解決のために行動する**。(地域に根差した学習と行動)
- AIがいくら発達しても、決してできない資質・能力を育成する。⇒**感動、心を揺さぶる**。



ESDの6つの構成概念を意識してカリキュラムを組む。授業を見直す。評価する。

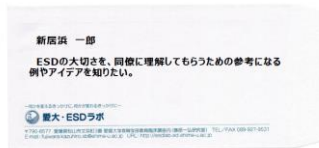
- 多様性 (いろいろある)
- 相互性 (関わり合っている。)
- 有限性 (限りがある。)
- 公平性 (一人一人大切に)
- 連携性 (力を合わせて)
- 責任性 (誠実に実行する)



【振り返りの活動】

配布された封筒の宛名面に

- 『自分の名前』
- 『この研修で学んで帰りたいことやアドバイスが欲しいこと』を記入し、10名程度のグループで封筒をまわしていく。各自に10枚程度のメッセージカードも配布されているので、封筒前面記載の内容についてのアドバイスや感想を1分間で書いて、封筒に入れ、次の人に回す。



明るい未来へ繋ぐタイムカプセル寄贈式（11月4日 消防防災合同庁舎）

今年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、多くの学校行事が中止や延期を余儀なくされています。特に小・中学校で最後の年を迎える小学校6年生、中学校3年生の皆さんについては、楽しみにしていた行事等の中止や縮小により、あらゆる場面で我慢を強いられています。



このような時に、新居浜ライオンズクラブ様より、青少年の健全育成の観点から、市内全小・中学校にタイムカプセルを寄贈していただけるお話をいただき、11月4日に、新居浜ライオンズクラブ様より新居浜市への寄贈式を行いました。

コロナ禍だからこそ気付くことができた人の優しさ、何気ない日常の尊さ、仲間と会えることの喜びなど、その大切な今の想いを手紙に込め、未来に繋がります。持続可能な明るい未来への展望を持つことができる教育活動に、このタイムカプセルが一役を担うことを願います。



ステンレス製、重さ十九・九四kg
高さ四十五cm、直径二十七・五cm



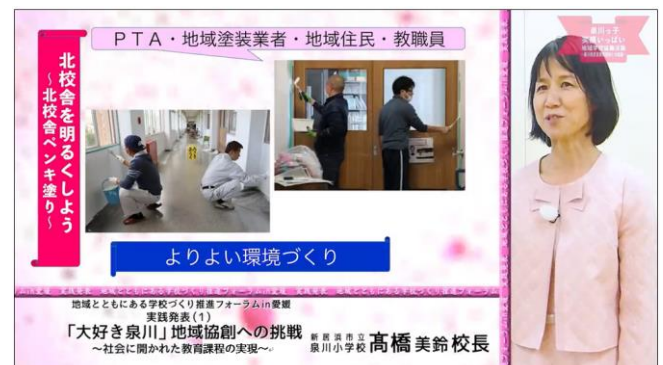
参加してくれた小・中学生の皆さんはインタビューにも堂々と応えていました。

何気ない日常の尊さに気づいたこの1年！



令和2年度『地域とともにある学校づくり』推進フォーラム in 愛媛（11月5日）

E S D通信（No.41）でお知らせしました標記フォーラムが開催されました。大会テーマは、『これからの学校づくりと地域づくり～「社会に開かれた教育課程」から～』。文部科学省、愛媛大学教育学部、愛媛大学教職大学院の主催によるもので、事例発表では、新居浜市立泉川小学校の高橋美鈴校長先生が『「大好き泉川」地域協創への挑戦～社会に開かれた教育課程の実現～』というテーマで、コミュニティ・スクールとしての魅力を余すところなく、実に分かりやすく紹介してくださいました。当日は、ビデオ・オン・デマンドという形で、収録されたものが配信されました。



マイスター座談会では、『「コミュニティ・スクール」』として、地域の中に先生を見つけることが大事』という意見が聞かれました。泉川小学校でも、『裁縫の先生』、『木工の先生』、『野菜の先生』といった地域からの先生を招聘し、授業をマネジメントしています。参加して下さった地域の方々にはやりがいを感じていただいております。教育の質をより高める活動となっています。